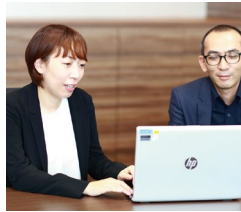


社員一人ひとりが輝きながら 会社も成長できる方向性を



もともと工業製品の製造会社で品質管理や研究開発を行っていたが、結婚して長く働く女性が少ないことを痛感。「一生活躍できる会社に」と経験者採用で長崎キャンノへ入社。入社後1年で人事部へ異動になった。人事の仕事は労務や総務に至るまで実に幅広い。OJTを受けた後はビジネス・キャリア検定や総務、労務、人材育成系の資格を毎年取得し、幅広い知識を身に付けた。会社の通信教育制度や受講費用の半額負担といったサポートも支えになった。

人事業務と仕事そのものにプロ意識を感じたきっかけは、7年前に出会った上司の存在。「キャンノのことが大好きで、仕事へ臨むべき姿勢を学びました」と“スイッチ”の入った瞬間を語る。



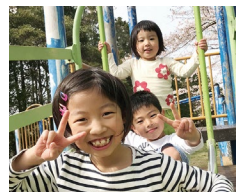
すべての社員の人生を預かるのが人事の仕事。もちろん社員側に立つことも必要だが、会社の経営スタッフの一員であることも忘れてはいけない。どうすれば社員が輝き会社が成長できるか。双方のバランスを常に考える。

社員の声を聴き改革する制度も少なくない。最近では、育児短時間勤務制度による勤務時間の変更を、年1回から3回まで対応できるように変更。大切なのは、社員の声と会社の目指すべき方向性がマッチした改革だ。

仕事を頑張る私を、 一番に応援してくれる

入社前から結婚しており、夫は現在も長崎在住。大分キャンノへの出向が決まった今年夏から単身赴任だ。仕事に対して理解のある夫の存在は何より大きい。「食事を作ったりするのはあまり得意ではないけど、仕事を頑張る私が一番好きだと言ってくれます」キャリアウーマンの顔が一気にほころぶ。

オフの日は目いっぱい好きなことに打ち込む性分。30年間続けてきたバスケットは、大分ではできていないが、ジムで身体を動かし汗を流す。コロナ禍の前は夫との旅行も欠かせないイベント。2年に1度は足を向けるほど北海道に魅力を感じ、礼文島で山登りに興じたのがいい思い出だ。



甥っ子や姪っ子との時間も息抜き

社会で頑張る女性には、「楽な仕事はないけど、何にも代え難いやりがいがあるのも仕事」とメッセージ。性別にはこだわらないが、多くの女性が生き生きと仕事と家庭を両立できる環境づくりに意気込む。

長崎に比べて会社の規模も大きな大分キャンノでは、できる制度改革も大きく仕事の幅も広がる。役職についても「ある程度大きなことを成し遂げるためには、地位が必要です」とキャリアプランを見据える。

PROFILE

竹田 悠美さん
YUMI TAKEDA

大分キャンノ株式会社
人事部 人事課長

2010年長崎キャンノの生産部門でカメラを製造。2011年人材育成部門に異動し、翌年から人事部人事課に。今年7月から大分キャンノに出向。現在は約3000人の社員の労務管理や人事業務、総務業務を行う。

令和2年度おおいた女性活躍推進事業者表彰受賞企業



PROFILE 小林 浩さん
HIROSHI KOBAYASHI 大分キャンノ株式会社
経営管理センター
人事部 部長

ダイバーシティを根底にキャリア志向の女性を応援

「キャンノ全体の人事の考え方として、前提にあるのがダイバーシティ。年齢や性別、国籍、宗教などを含めて属性によらない個性を活かした活躍を推進するという考えです」と小林さん。その一つとして女性が活躍できる取り組みも多様に行う。女性だけのチームでディスカッションする機会を設ける、役職希望者の選抜研修など、経営を学ぶプログラムやキャリアを後押しするアプローチはさまざまだ。

女性が長く働く中で、結婚や出産、介護などのライフイベントが発生すれば休暇や短時間勤務、勤務時間のシフトなど、基本的な制度は充実している。

女性管理職は、ときには上司でもNoと言える人が多い。「ロジックが整っており、周りへの配慮など、多方面からの視点を取り入れて冷静に意見してくれる傾向にありますね」と話す。

実力主義の社風とあり、竹田さんのようにキャリア志向の強い社員は、人事評価や試験制度をクリアすれば昇進も早い。「時代の風にあなを立って、新しい人事制度や働き方改革など色んなアイデアを取り込み実務に活かしてくれるのはとてもありがたい」と評価する。